

# 景気ウォッチャー調査

## Economy Watchers Survey

平成 13 年 9 月調査結果

平成 13 年 10 月 12 日

内閣府政策統括官  
(経済財政・景気判断・政策分析担当)



## 目 次

調査の概要	2
利用上の注意	4
D Iの算出方法	4
調査結果	5
I . 全国の動向	6
1 . 景気の現状判断D I	6
2 . 景気の先行き判断D I	7
II . 各地域の動向	8
1 . 景気の現状判断D I	8
2 . 景気の先行き判断D I	10
III . 景気判断理由の要約	12
(参考) 景気の現状水準判断D I	25
景気判断理由集	27
I . 景気の現状に対する判断理由等	28
II . 景気の先行きに対する判断理由	64

## 調査の概要

### 1. 調査の目的

地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的とする。

### 2. 調査の範囲

#### (1) 対象地域

北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄の11地域を対象とする。各地域に含まれる都道府県は以下のとおりである。(なお、平成12年1月調査の対象地域は、北海道、東北、東海、近畿、九州の5地域、平成12年2月調査から9月調査までの対象地域は、これら5地域に関東を加えた6地域である。)

地域	都道府県
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟
関東	北関東 茨城、栃木、群馬、山梨、長野
	南関東 埼玉、千葉、東京、神奈川
東海	静岡、岐阜、愛知、三重
北陸	富山、石川、福井
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄	沖縄
全国	上記の計

#### (2) 調査客体

家計動向、企業動向、雇用等、代表的な経済活動項目の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種の適当な職種の中から選定した2,050人を調査客体とする。調査客体の地域別、分野別の構成については、別紙を参照のこと。

### 3. 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断(水準)

### 4. 調査期日及び期間

調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月25日から月末である。

## 5. 調査機関及び系統

内閣府が主管し、各調査対象地域に地域ごとの調査を実施する「地域別調査機関」を1か所ずつ設けるとともに、各地域別調査機関による地域ごとの調査結果を集計・分析する「取りまとめ調査機関」を1か所設け、これらの機関に本調査業務を委託して実施したものである。

(取りまとめ調査機関)		財団法人	日本経済研究所
(地域別調査機関)	北海道	株式会社	北海道二十一世紀総合研究所
	東北	財団法人	東北開発研究センター
	北関東	財団法人	日本経済研究所
	南関東	財団法人	日本経済研究所
	東海	株式会社	東海総合研究所
	北陸	財団法人	北陸経済研究所
	近畿	株式会社	大和銀総合研究所
	中国	社団法人	中国地方総合研究センター
	四国	四国経済連合会	
	九州	財団法人	九州経済調査協会
	沖縄	財団法人	南西地域産業活性化センター

## 6. 有効回答率

地域	調査客体	有効 回答客体	有効 回答率	地域	調査客体	有効 回答客体	有効 回答率
北海道	130人	122人	93.8%	近畿	290人	255人	87.9%
東北	210人	201人	95.7%	中国	170人	170人	100.0%
北関東	200人	173人	86.5%	四国	110人	102人	92.7%
南関東	330人	271人	82.1%	九州	210人	184人	87.6%
東海	250人	216人	86.4%	沖縄	50人	44人	88.0%
北陸	100人	97人	97.0%	全国	2,050人	1,835人	89.5%

### 利用上の注意

1. 分野別の表記における「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、企業動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、雇用関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断を示す。
2. 表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しない場合がある。

### D I の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、D Iを算出している。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

## 調 査 結 果

- I．全国の動向
  - 1．景気の現状判断D I
  - 2．景気の先行き判断D I
- II．各地域の動向
  - 1．景気の現状判断D I
  - 2．景気の先行き判断D I
- III．景気判断理由の要約  
(参考)景気の現状水準判断D I

# I. 全国の動向

## 1. 景気の現状判断D I

3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D Iは、28.4 となった。家計動向関連、企業動向関連、雇用関連のすべてのD Iが低下したことから、前月より2.8ポイント下回り、4か月連続の低下となった。横ばいを示す50を14か月連続で下回っている。

図表1 景気の現状判断D I  
(D I)

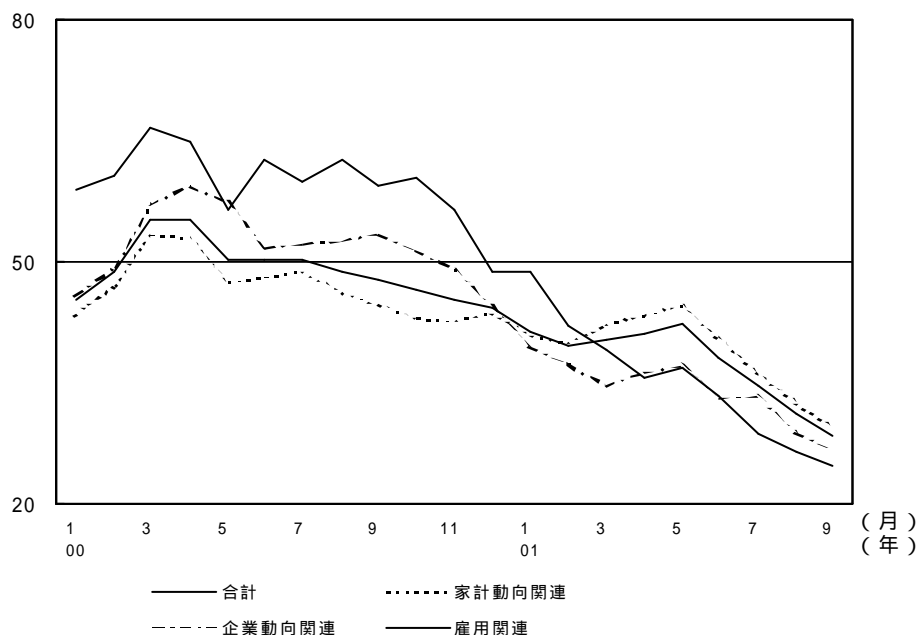
年 月	2001 4	5	6	7	8	9
合計	41.1	42.3	38.2	34.8	31.2(31.7)	28.4(28.7)
家計動向関連	43.3	44.6	40.4	36.2	32.6(33.4)	29.5(29.8)
小売関連	42.0	44.4	41.2	37.1	33.2(34.4)	31.4(31.8)
飲食関連	45.5	39.4	36.9	32.4	27.5(28.7)	23.9(24.7)
サービス関連	45.2	46.3	40.4	36.9	33.7(33.2)	27.8(27.9)
住宅関連	45.7	46.3	38.6	31.0	27.9(30.4)	26.4(26.5)
企業動向関連	36.3	37.1	33.1	33.4	28.9(28.5)	26.7(26.9)
製造業	30.7	32.9	28.7	30.6	25.1(24.4)	26.0(25.6)
非製造業	40.7	40.3	36.4	34.8	31.5(30.9)	26.8(27.3)
雇用関連	35.6	36.9	33.3	28.8	26.3(26.8)	24.7(24.6)

( )内は7月調査以前からの1,500人を対象とする数値。

図表2 構成比

年 月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	D I
2001 7	0.9%	7.6%	36.3%	40.3%	14.9%	34.8
8	0.3%	6.7%	30.0%	43.4%	19.6%	31.2
9	0.8%	5.6%	25.7%	42.5%	25.4%	28.4

図表3 景気の現状判断D I  
(D I)





## 2. 景気の先行き判断D I

2～3か月先の景気の先行きに対する判断D Iは、31.1となった。家計動向関連、企業動向関連、雇用関連のすべてのD Iが低下したことから、前月より4.2ポイント下回り、4か月連続の低下となった。横ばいを示す50を12か月連続で下回っている。

図表4 景気の先行き判断D I  
(D I)

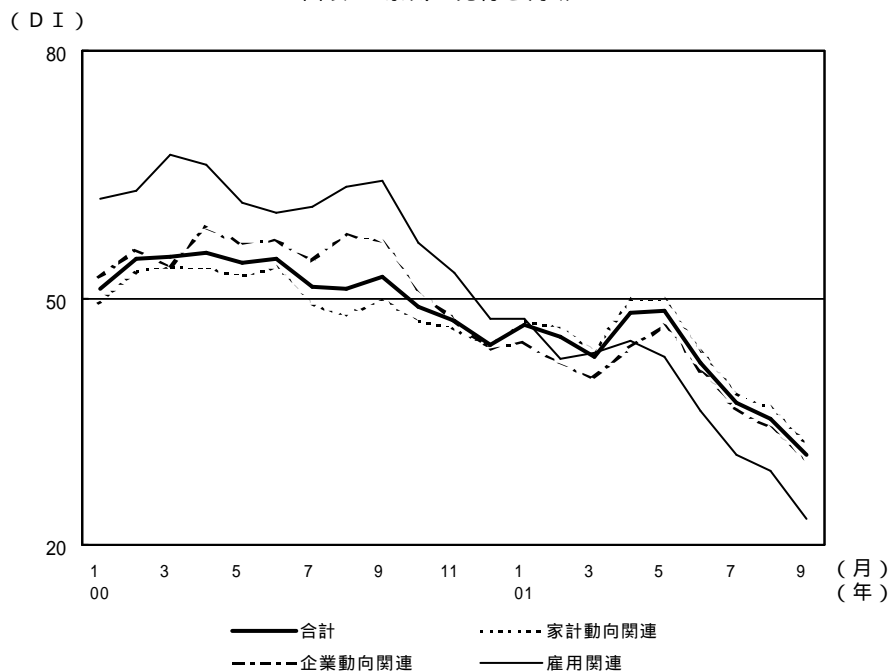
	年	2001					
	月	4	5	6	7	8	9
合計		48.1	48.4	42.3	37.2	35.3(35.5)	31.1(31.1)
家計動向関連		49.8	49.8	43.5	38.3	36.6(36.8)	32.5(32.5)
小売関連		49.4	50.1	44.2	38.5	37.0(37.8)	32.7(32.8)
飲食関連		48.3	48.3	39.4	35.6	33.0(34.0)	33.1(33.2)
サービス関連		50.1	49.7	44.7	39.7	37.5(36.0)	32.4(32.1)
住宅関連		54.0	48.5	39.3	35.1	33.0(34.2)	30.4(31.3)
企業動向関連		44.0	46.6	41.0	36.6	34.2(34.6)	30.0(30.3)
製造業		39.2	44.2	38.9	36.0	33.8(35.3)	29.0(29.1)
非製造業		48.1	48.3	42.5	36.8	33.9(33.2)	30.2(30.3)
雇用関連		44.6	43.0	36.2	31.1	29.0(28.4)	23.2(22.6)

( )内は7月調査以前からの1,500人を対象とする数値。

図表5 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	D I
2001	7	0.4%	7.0%	45.5%	35.5%	11.7%	37.2
	8	0.5%	7.9%	39.6%	36.5%	15.5%	35.3
	9	0.3%	7.5%	31.7%	37.3%	23.3%	31.1

図表6 景気の先行き判断D I



## II. 各地域の動向

### 1. 景気の現状判断D I

図表7 景気の現状判断D I (各分野計)

(D I)	年 月	2001 4	5	6	7	8	9
全国		41.1	42.3	38.2	34.8	31.2(31.7)	28.4(28.7)
北海道		42.9	42.1	39.5	37.4	36.4(36.5)	33.0(32.8)
東北		39.9	39.1	34.5	31.8	28.2(28.6)	27.1(26.8)
関東		40.1	42.4	36.6	34.4	28.9(29.8)	28.2(29.5)
北関東		42.3	37.3	34.1	31.0	26.1(29.0)	25.3(29.8)
南関東		39.1	44.7	37.8	35.9	30.6(30.2)	30.0(29.4)
東海		43.5	45.3	38.9	32.3	31.9(32.5)	28.7(29.5)
北陸		36.8	37.1	33.3	32.4	28.8(28.8)	29.9(29.9)
近畿		40.6	43.5	39.8	35.6	32.1(33.4)	26.8(26.5)
中国		44.5	45.8	38.3	35.0	35.1(35.5)	32.5(33.5)
四国		38.2	39.5	39.2	34.9	31.4(31.5)	26.2(26.3)
九州		42.1	43.7	42.4	38.5	30.7(29.9)	26.5(26.0)
沖縄		40.6	41.3	42.9	44.3	38.3(43.8)	27.8(28.9)

( )内は7月調査以前からの1,500人を対象とする数値。

図表8 景気の現状判断D I (家計動向関連)

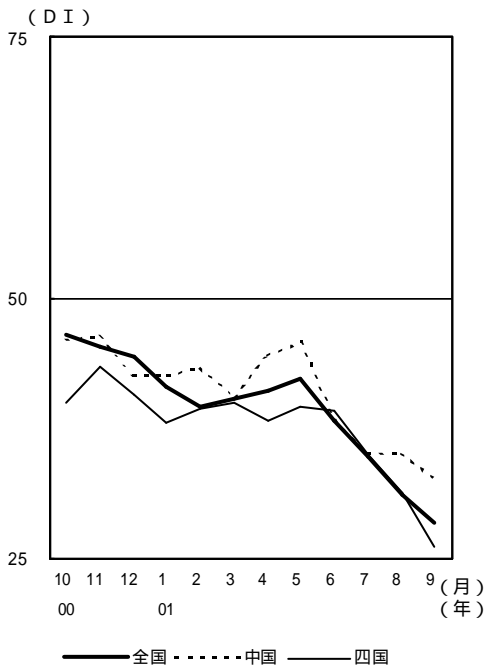
(D I)	年 月	2001 4	5	6	7	8	9
全国		43.3	44.6	40.4	36.2	32.6(33.4)	29.5(29.8)
北海道		42.3	41.6	39.6	36.3	36.8(36.5)	34.5(33.9)
東北		43.9	41.9	36.7	32.8	28.8(29.5)	27.1(26.7)
関東		42.2	45.3	39.0	35.9	30.5(31.5)	28.9(30.0)
北関東		44.6	42.0	37.8	31.5	27.4(29.7)	26.1(31.4)
南関東		41.2	46.9	39.5	38.0	32.3(32.2)	30.7(29.3)
東海		45.9	48.2	42.0	33.8	33.0(35.5)	30.6(32.0)
北陸		38.3	41.0	36.4	33.6	31.3(31.3)	32.6(32.6)
近畿		45.2	47.1	42.2	38.7	33.4(34.7)	27.1(26.5)
中国		47.9	48.2	41.1	36.8	37.2(38.6)	35.1(37.1)
四国		39.8	40.8	41.3	34.7	34.0(34.7)	27.5(28.1)
九州		42.9	45.2	43.8	40.7	32.1(31.3)	27.9(27.2)
沖縄		36.4	40.0	48.1	44.6	37.1(38.5)	24.2(23.1)

( )内は7月調査以前からの1,500人を対象とする数値。

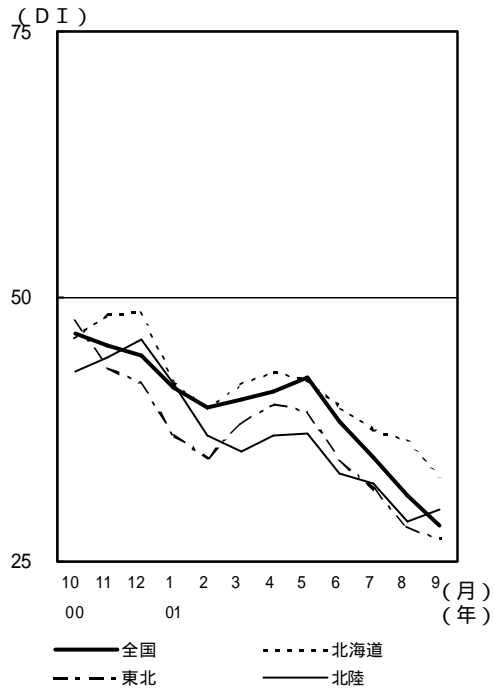
図表9 地域別DI(各分野計)  
(大都市圏)



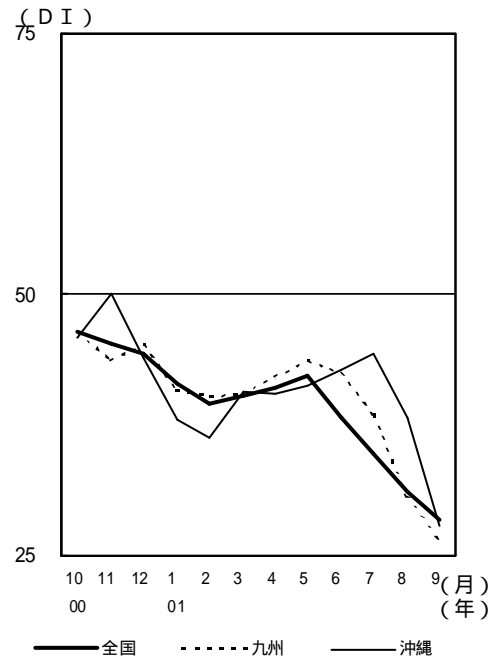
図表11 地域別DI(各分野計)  
(地方圏)



図表10 地域別DI(各分野計)  
(地方圏)



図表12 地域別DI(各分野計)  
(地方圏)



## 2. 景気の先行き判断D I

図表 13 景気の先行き判断D I (各分野計)

(D I)	年 月	2001 4	5	6	7	8	9
全国		48.1	48.4	42.3	37.2	35.3(35.5)	31.1(31.1)
北海道		49.4	49.2	42.6	39.1	37.8(37.9)	30.9(30.7)
東北		46.9	46.9	38.3	35.1	32.2(32.4)	28.7(28.4)
関東		47.1	47.2	39.8	38.5	35.0(35.4)	31.1(31.6)
北関東		48.8	46.5	40.2	36.3	32.7(35.1)	29.5(35.9)
南関東		46.3	47.5	39.7	39.5	36.4(35.6)	32.2(29.6)
東海		49.5	50.3	43.9	34.0	35.5(35.7)	32.4(32.2)
北陸		44.2	43.8	37.9	36.7	35.2(35.2)	31.7(31.7)
近畿		48.8	49.0	44.2	37.4	36.0(36.1)	29.3(29.4)
中国		50.0	49.8	45.0	42.0	35.4(38.0)	33.5(34.8)
四国		46.2	46.8	43.0	36.5	36.7(36.5)	31.1(31.5)
九州		49.3	50.6	45.9	37.1	34.8(34.3)	31.5(31.5)
沖縄		50.0	53.3	45.2	38.6	40.0(37.5)	32.4(30.3)

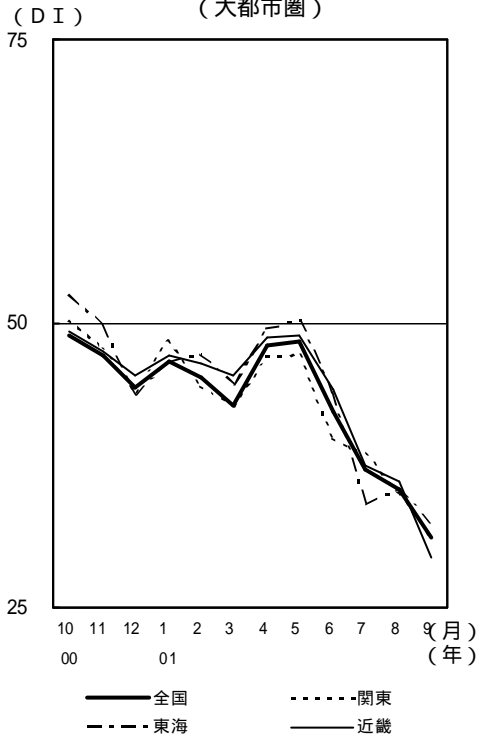
( )内は7月調査以前からの1,500人を対象とする数値。

図表 14 景気の先行き判断D I (家計動向関連)

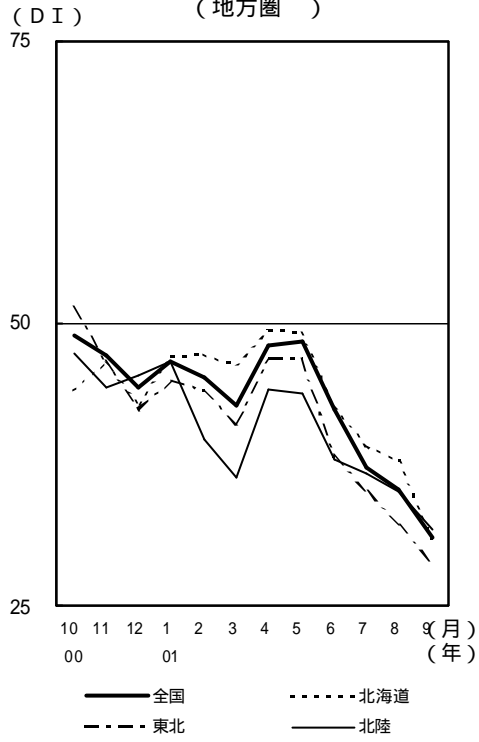
(D I)	年 月	2001 4	5	6	7	8	9
全国		49.8	49.8	43.5	38.3	36.6(36.8)	32.5(32.5)
北海道		49.1	48.8	42.4	39.3	38.5(38.5)	33.0(32.4)
東北		48.3	48.5	39.9	36.6	34.2(34.6)	29.8(29.4)
関東		50.0	47.9	40.5	39.9	36.3(35.8)	32.4(31.8)
北関東		52.2	48.0	41.1	38.5	33.5(34.4)	31.3(38.4)
南関東		49.0	47.8	40.3	40.6	37.9(36.4)	33.1(28.8)
東海		49.8	52.0	44.3	34.6	36.4(37.6)	35.1(36.0)
北陸		47.3	48.9	40.4	37.3	38.1(38.1)	36.0(36.0)
近畿		52.3	50.2	45.6	38.1	36.0(35.1)	29.1(28.8)
中国		51.4	52.5	47.1	44.3	37.6(41.4)	34.9(36.8)
四国		48.1	47.3	45.5	36.6	39.2(39.2)	33.9(34.2)
九州		51.0	51.3	47.3	39.5	35.8(35.4)	33.1(33.1)
沖縄		45.5	51.7	46.2	35.7	38.7(34.6)	29.8(23.1)

( )内は7月調査以前からの1,500人を対象とする数値。

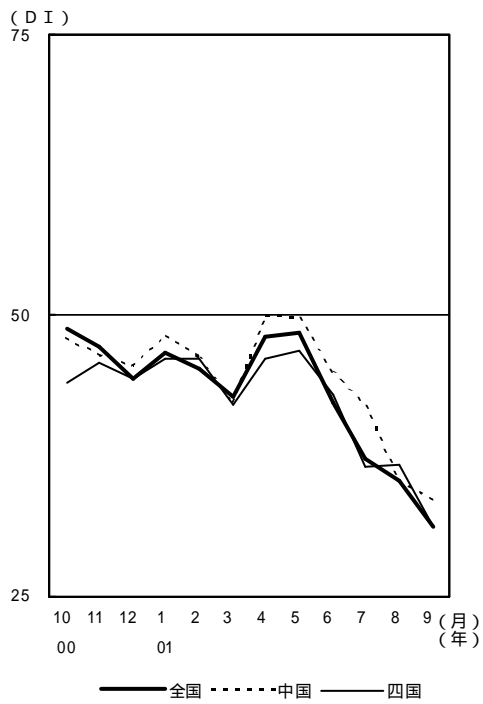
図表15 地域別D I (各分野計)  
(大都市圏)



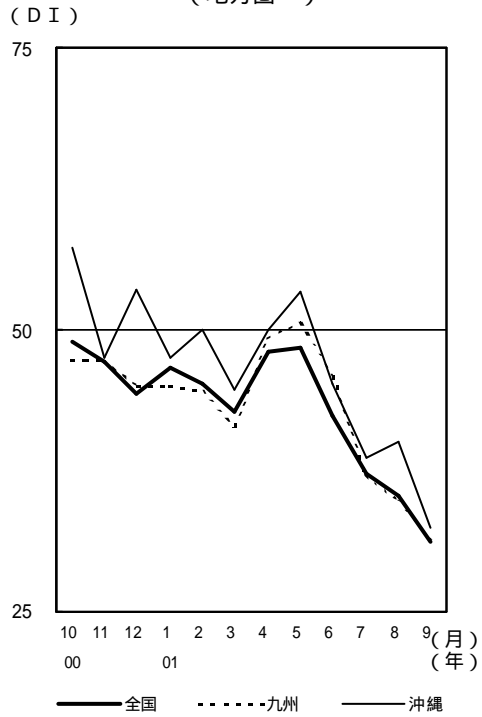
図表16 地域別D I (各分野計)  
(地方圏)



図表17 地域別D I (各分野計)  
(地方圏)



図表18 地域別D I (各分野計)  
(地方圏)



### III. 景気判断理由の要約

全国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

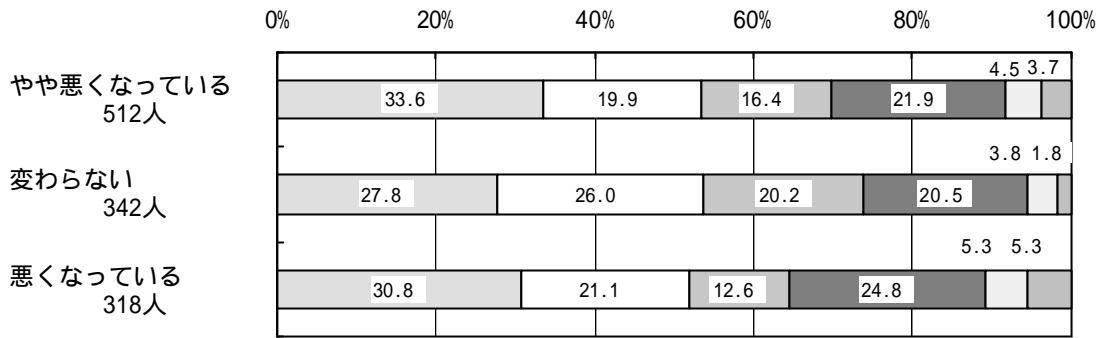
分野	判断	特徴的な判断理由	
現 状	家計 動向 関連	・秋物の婦人服の売上が好調である。ヤングからミセスまで年代を問わず売上は前年を上回っている。前年比はこの数か月で最高の伸びである(東海=百貨店)。	
		・例年であれば、冬に向かい高単価のジャケットなどの羽織物が売れるのに、今年はトレーナーなどの低単価商品が売れている(東北=住関連専門店)。	
		・人気商品と売れない商品の格差が大きい。人気商品については欠品が続き、売れ残りの商品はいつまでも動かない状況が顕著になっている(南関東=家電量販店)。 ・狂牛病の影響で牛肉が対前月比で50%の販売量となり、それに付随するすき焼きなどの野菜や調味料の売上も落ちている(東海=スーパー)。	
	×	・米国における同時多発テロ事件(以下、米国テロと略)でキャンセルが相次ぎ、すべて国内旅行に切り替わっている(中国=旅行代理店)。	
	企業 動向 関連	・9月末にようやく新規の公共工事が多く発注され、端境期といわれる5、6月と比較して仕事量が増加している(北陸=建設業)。	
		×	・IT関連の会社から、厳しい値下げの要求や、設備全体の縮小、納期遅延の話がきている(九州=金属製品製造業)。 ・携帯電話用部品のうち欧米向けの機種が生産調整中で、更に長期化しそうである。また、民生機器の分野では、OA機器などの生産が東南アジアや中国にシフトされたことにより、価格競争が一段と厳しくなっている(東北=一般機械器具製造業)。
雇用 関連	・大手スーパー、百貨店、自動車メーカーとその下請関連の企業でリストラになった人たちが求職者となっており、求職者数が増加している(中国=民間職業紹介機関)。		
	×	・大手スーパーの破たんにより、本体だけでなく関連企業や取引企業の破たんや人員整理も顕著となっている(近畿=職業安定所)。	
先 行 き	家計 動向 関連	・パソコンの次世代OSが出るので期待が持てる(中国=家電量販店)。	
		・秋物商戦はすでに立ち上がっているが、大手量販店を中心に低価格をアピールする販促対策が多く、今後も当面単価の下落傾向は続く(東北=衣料品専門店)。	
		×	・米国テロの影響が波及する懸念があるとともに、狂牛病の今後の広がりによっては生鮮食品のウェイトの大きい食品スーパーの業績に影響が生じる(近畿=スーパー)。 ・米国テロの影響を大きく受ける。今後も修学旅行等で沖縄を避けることが懸念され、売上も減少が見込まれる(沖縄=高級レストラン)。 ・大手スーパーが破たんしており、この影響で取引先などの経営も悪化している。また、狂牛病問題で牛肉の売上が減少しており、これから年末に向かいますます悪くなっていく(東北=スーパー)。
	企業 動向 関連	・特定調停の申立て、民事再生、破産の申立て、支払督促など、これまで2、3年で受託した件数をこの2、3か月で受託している(北陸=司法書士)。	
		×	・自動車関連、IT関連の仕事が主であるが、受注が減少しており、新しい機種の開発がないため、当分は更に悪くなる。そこへ米国テロの影響などから、輸出が実際に落ちてくると非常に心配である(東海=輸送用機械器具製造業)。 ・為替が一時期よりも円高に推移しており、このまま続くと、従来の収益の柱である輸出の採算が更に悪化していく(東北=一般機械器具製造業)。 ・半導体メーカーからの発注状況が全く不透明である。発注の悪さは液晶関連ロボットにまで影響している(九州=電気機械器具製造業)。
		雇用 関連	・雇用調整や人員整理関係の相談が増えており、解雇者数も増加している(北陸=職業安定所)。 ×
×	・社員の需要が減ってきているだけでなく、大手メーカーの技能期間工などの需要やアルバイト、パートの需要も落ち始めている(東海=求人情報誌製作会社)。		

(備考)

- 「景気判断理由の要約 全国」(12頁)は、「現状」、「先行き」ごとに区分した3分野(「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」)に該当する地域の特徴的な判断理由を選択し、5つの回答区分(「良」、「やや良」、「不変」、「やや悪」、「悪」)ごとに判断が良い順に掲載した。
- 「現状判断の回答者数の理由別構成比」(13頁)は、全国の「現状判断」の回答のうち、3分野それぞれにおいて、5つの回答区分の中で回答者数が多い上位3区分(雇用動向関連は上位2区分)の理由別構成比を掲載した。
- 14~24頁は、各地域の景気判断理由の要約である。そのうち、「現状」欄は、地域の「現状判断」の回答のうち、3分野それぞれにおいて、5つの回答区分の中で回答者数が多い上位3区分(雇用動向関連は上位2区分)の判断の理由を上位3位まで掲載した。「特徴」欄は、「多数回答」欄に掲載されたもの以外で、特徴と考えられるものを掲載した。また、「先行き」欄は3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数が多かった上位3区分を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それらにおける代表的な回答である。なお、「特徴」欄は、「現状」と同様である。

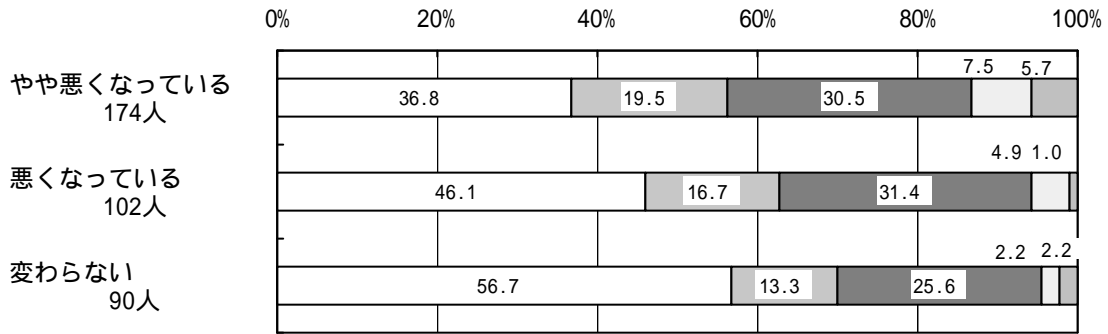
図表19 現状判断の回答者数の理由別構成比

家計動向関連



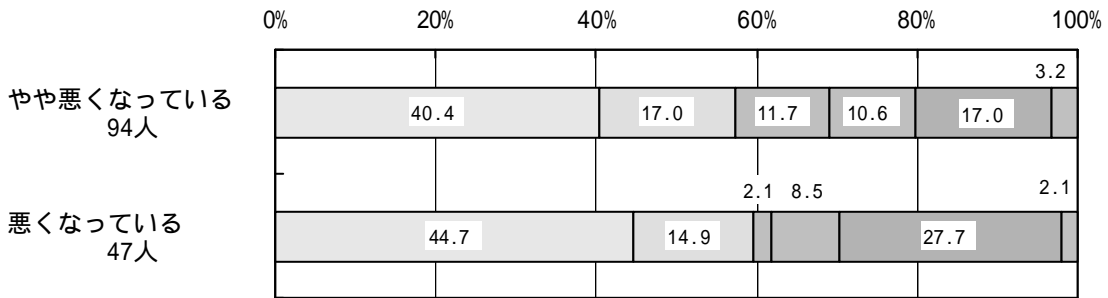
□ 来客数の動き □ 販売量の動き □ 単価の動き ■ お客様の様子 □ 競争相手の様子 □ それ以外

企業動向関連



□ 受注量や販売量の動き □ 受注価格や販売価格の動き ■ 取引先の様子 □ 競争相手の様子 □ それ以外

雇用関連



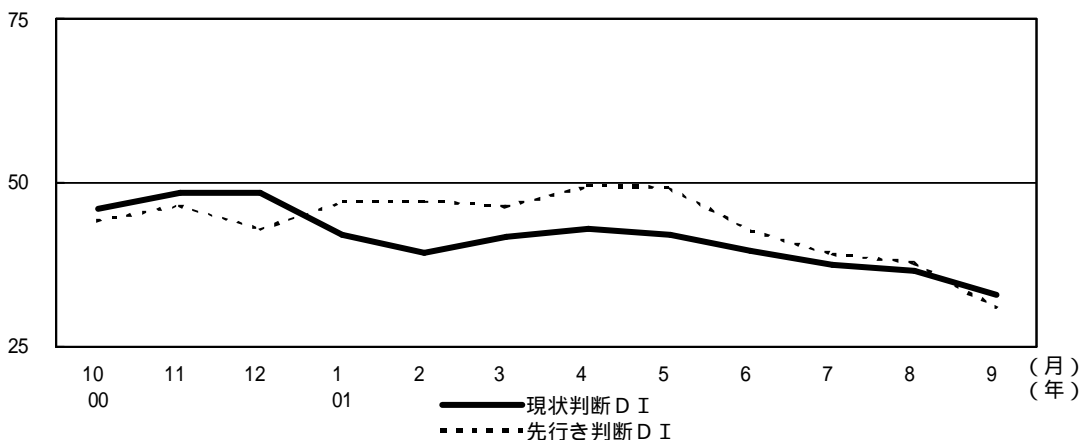
□ 求人数の動き □ 求職者数の動き □ 採用者数の動き □ 雇用形態の様子 □ 周辺企業の様子 □ それ以外

1. 北海道

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 x悪 )

	分野	判断	判断の理由			
			1	2	3	
現状	家計 動向 関連		来客数の動き	お客様の様子	販売量の動き 単価の動き	
			販売量の動き お客様の様子	-	単価の動き	
		x	販売量の動き	単価の動き お客様の様子	-	
	企業 動向 関連		受注量や販売量の動き	取引先の様子	競争相手の様子	
			受注量や販売量の動き	取引先の様子	受注価格や販売価格の動き	
		x	受注量や販売量の動き	受注価格や販売価格の動き	-	
	雇用 関連		求人数の動き 周辺企業の様子	-	求職者数の動き 雇用形態の様子	
		x	求職者数の動き	雇用形態の様子 周辺企業の様子	-	
	特徴	: 携帯電話をはじめとする移動通信の販売量が、3か月前と比べて2、3割程度減少している(通信会社) : 旭川を中心に道北方面の取引先を訪問したところ、建設業界の取引先の9割程度が、対前年比の受注額で2~3割落ち込んでいる(その他サービス業[建設機械リース]) x: 卸売業、製造業では、取引先の大手スーパーが倒産すると打撃が大きく、会社を解散しなければならないという話も聞く(人材派遣会社)				
	先行き	分野	判断	判断の理由		
家計 動向 関連			・来客数は前年並みで推移しているが、価格競争の激化に伴い、一品単価については引下げをしなければならない状況にあり、売上の確保が困難となっている(スーパー)			
			・低価格車と7、8人乗りの車種は売れるが、セダンの代替えサイクルは長期化している(乗用車販売店)			
企業 動向 関連			・IT関連への投資意欲はそこそこおう盛であったが、ここきてIT不況が鮮明となり、弊社を取り巻く環境も薄日から曇りの様相となっている(通信業)			
			・構造改革の政策、アメリカの景気は弱い状態となっているなど、先行きが不透明な状況であり、各取引先も設備投資に慎重である(その他サービス業[建設機械リース])			
雇用 関連	x	・IT関連企業での事業縮小や、水産加工業での合理化で、離職者が増加している。また、在職求職者の増加も続いている(職業安定所)				
特徴	: 米国テロの影響で先行きの不透明感が増し、消費が更に慎重になってきている。特に中高年者層の客にその傾向が感じられる(商店街) : 「給与が下がった」、「サービス残業が増えた」、「マンションの住民に夜逃げが多くなった」といった話題が多くなっており、どんなに安くても必要のない物は買わないという雰囲気が強くなってきている(美容室)					

( D I ) 図表20 現状・先行き判断D Iの推移



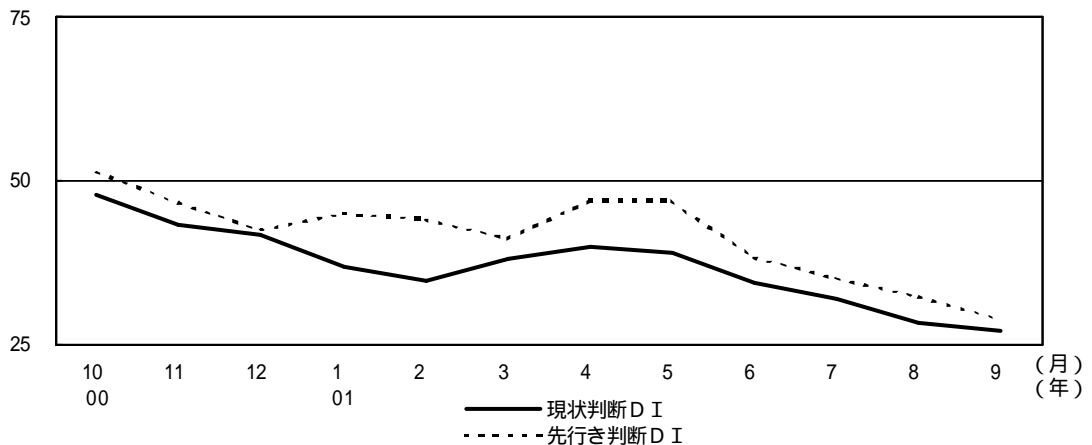


2. 東北

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由			
			1	2	3	
現状	家計 動向 関連		来客数の動き	販売量の動き 単価の動き	-	
			来客数の動き	単価の動き	お客様の様子	
		×	来客数の動き	販売量の動き	単価の動き お客様の様子	
	企業 動向 関連		取引先の様子	受注価格や販売価格の動き	受注量や販売量の動き 競争相手の様子	
		×	受注量や販売量の動き 取引先の様子	-	それ以外	
			受注量や販売量の動き	受注価格や販売価格の動き 取引先の様子	-	
	雇用 関連		求人数の動き	求職者数の動き	雇用形態の様子 周辺企業の様子	
		×	求人数の動き	雇用形態の様子	求職者数の動き 周辺企業の様子	
	特徴	: 気温の急激な低下により、秋冬物が好調であり、来客数も増加している(衣料品専門店)。 : 国体の夏季大会により人の動きがあるものの、客単価が低く売上が良くない(食料品製造業)。 × : 携帯電話用部品のうち欧米向けの機種が生産調整中で、更に長期化しそうである。また、民生機器の分野では、OA機器などの生産が東南アジアや中国にシフトされたことにより、価格競争が一段と厳しくなってきた(一般機械器具製造業)。				
	先行き	分野	判断	判断の理由		
家計 動向 関連			・秋物商戦はすでに立ち上がっているが、大手量販店を中心に低価格をアピールする販促対策が多く、今後も当面単価の下落傾向は続く(衣料品専門店)。			
			・狂牛病の影響で、牛肉の売上が15~20%減少しており、今後への影響が心配である(スーパー)。			
企業 動向 関連			・狂牛病問題で、肉から魚へのシフトが予想され、おでんなどの需要増が期待されるが、各家庭レベルでみればおでんの需要が急に高まるとは考えにくく、総じて変化はない(食料品製造業)。			
		×	・従来は年末商戦での特需があったが、今年は全くない(電気機械器具製造業)。 ・為替が一時期よりも円高に推移しており、このまま続くと、従来の収益の柱である輸出の採算が更に悪化していく(電気機械器具製造業)。			
雇用 関連			・全般として、正社員のニーズが当面高まらず、採用マインドも低い。アルバイトのニーズはこのまま続く(求人情報誌製作会社)。			
特徴	: 競合店が民事再生法を申請したことにより、当社に客が集中しつつある(百貨店)。 × : 大手スーパーが破たんしており、この影響で取引先などの経営も悪化している(スーパー)。					

( D I ) 図表21 現状・先行き判断D Iの推移

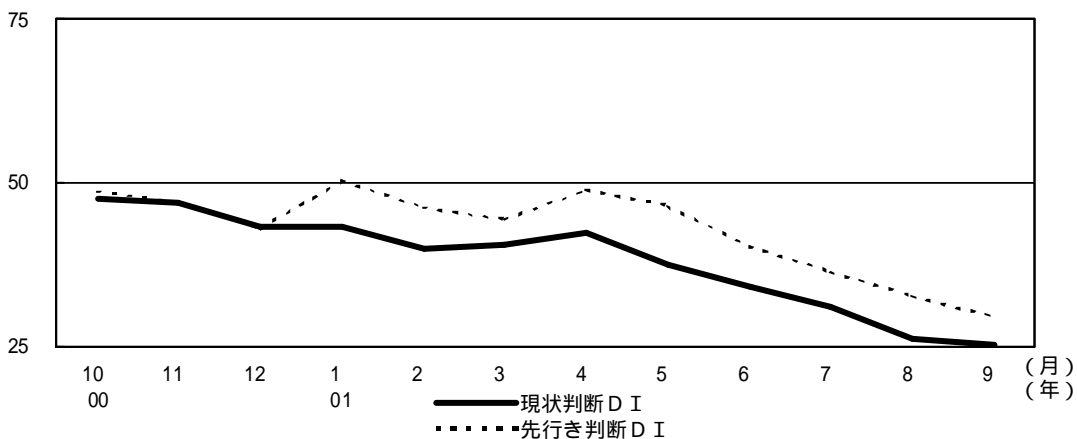


### 3. 北関東

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由			
			1	2	3	
現状	家計 動向 関連	×	来客数の動き	販売量の動き	お客様の様子	
			来客数の動き	販売量の動き	お客様の様子	
			来客数の動き	単価の動き	販売量の動き お客様の様子	
	企業 動向 関連		受注量や販売量の動き	受注価格や販売価格の動き 取引先の様子	-	
		×	受注量や販売量の動き	取引先の様子	競争相手の様子	
			受注量や販売量の動き	取引先の様子	-	
	雇用 関連		求人数の動き	採用者数の動き 雇用形態の様子	-	
		×	周辺企業の様子	求人数の動き	-	
	特徴	: 客は土地の価格がまだ下落すると考えており、購入には至らない(住宅販売会社) × : 3か月前には、9月オープンのディズニーシーに期待していたが、いまだ受注が少ない。更に 米国テロが起き、受注が大幅に落ち込んでいる(旅行代理店) × : 医者、看護婦、保母等の募集はあるが、全体的な求人広告数は低迷している(求人情報誌製作 会社)。				
	先行き	分野	判断	判断の理由		
家計 動向 関連			・携帯電話の普及率は高いので、新規加入数の伸びは今後も期待できない(通信会社)。			
			・商店街の人通りが少なくなっており、土日の売上が伸びない(商店街)。			
企業 動向 関連		×	・公共投資の大幅削減による影響で、建設機械、特装車両、ミキサー車の部品が売れない。 また、親会社のリストラで、外注工場の大幅なコストダウン、工事削減、部品購入の韓国 や中国へのシフトが予定されている(金属製品製造業)。			
			・取引先である大手企業が海外に出てしまい、これまでなかったタイやベトナムなどにも 工場が進出している。国内での仕事がなくなり、コストの要求も非常に厳しい状況が続く (輸送用機械器具製造業)。			
雇用 関連			・企業の求人担当者に問い合わせているが、先行き不透明なので必要に応じてパートで対 応するという返事や、新規求人の見込みが立たないという返事が多い(職業安定所)。			
特徴	: 新型の軽自動車が発売されるが、前評判が思ったより良く、期待している(乗用車販売店) : 近隣の民事再生法を申請した大手スーパーに、テナントとして入っている店や取引先で不安が かなりある(金融業)。					

( D I ) 図表22 現状・先行き判断D Iの推移

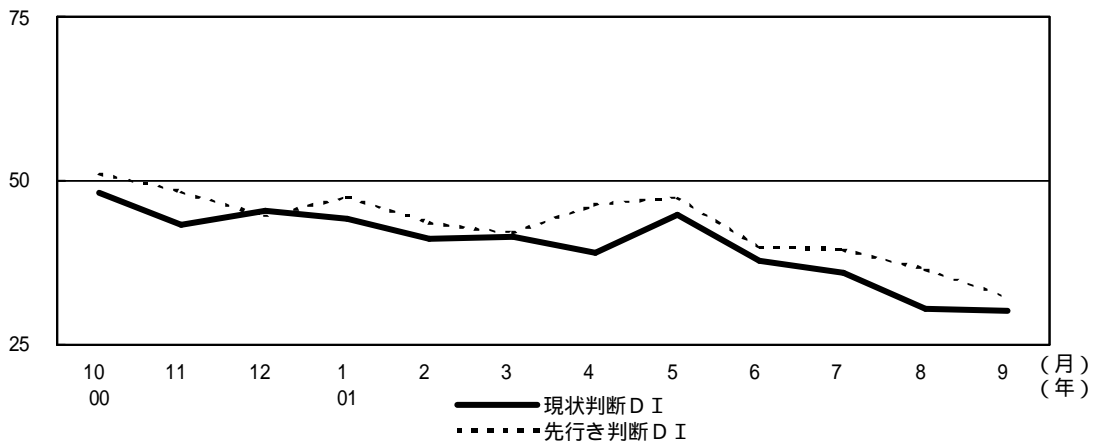


4. 南関東

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由			
			1	2	3	
現状	家計 動向 関連		来客数の動き お客様の様子	-	単価の動き	
			来客数の動き	販売量の動き	お客様の様子	
		×	お客様の様子	来客数の動き	販売量の動き	
	企業 動向 関連		取引先の様子	受注量や販売量の動き 受注価格や販売価格の動き	-	
			取引先の様子	受注量や販売量の動き	受注価格や販売価格の動き	
		×	取引先の様子	受注量や販売量の動き 受注価格や販売価格の動き	-	
	雇用 関連		求人数の動き	採用者数の動き	求職者数の動き 雇用形態の様子 周辺企業の様子	
		×	周辺企業の様子	求人数の動き 求職者数の動き 採用者数の動き それ以外	-	
	特徴	: 9月上旬の涼しい気候により、ミセス商品の販売が好調であるが、売れているのはグレードを下げた商品である(一般小売店) : 米国テロの影響で、海外からの客の予約が相次いでキャンセルされている(都市型ホテル) : 資金需要が依然として低迷しており、赤字補てんの申込が目立つ(金融業)				
	先行き	分野	判断	判断の理由		
家計 動向 関連			・ 値引きやポイントを付与する企画は好調であるが、通常価格での販売促進は難しい(百貨店)。			
企業 動向 関連			・ 競合店のチラシ掲載価格が低下し、客もその価格帯に慣れている(スーパー)。			
雇用 関連			・ 客先で発注計画等の見直しが行われている(その他サービス業[情報サービス])。			
特徴			・ 新たな得意先をみつけて現状より悪化しないよう努力している(一般機械器具製造業)。			
特徴	: 正規価格品が売れず、セールの構成比が高まる悪循環になる(百貨店) : ADSLサービスの開始が間近に迫っているが、値下げ競争激化の中でも、買い控えの傾向が一段と強まっている(通信会社)					

( D I ) 図表23 現状・先行き判断D Iの推移

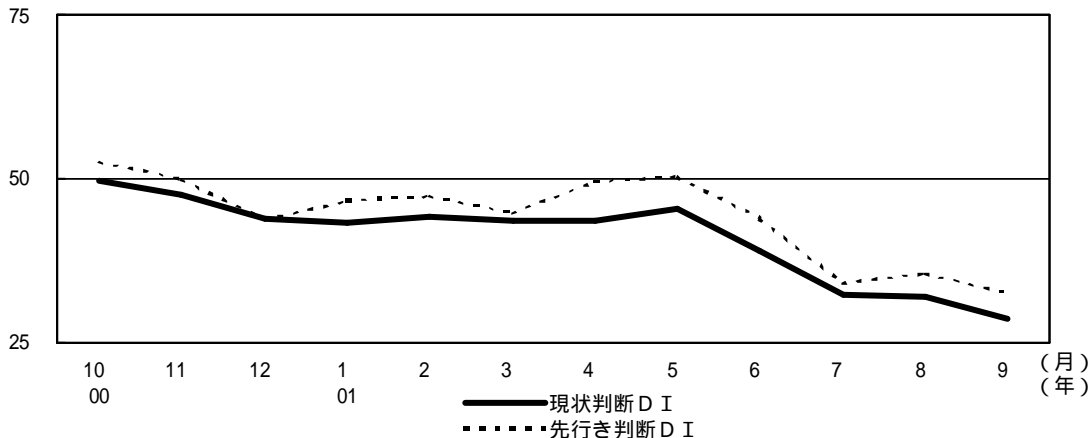


5. 東海

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 x悪 )

分野	判断	判断の理由			
		1	2	3	
現状	家計動向 関連	来客数の動き お客様の様子	-	単価の動き	
		販売量の動き	単価の動き	お客様の様子	
	x	販売量の動き	お客様の様子	来客数の動き	
	企業動向 関連	受注量や販売量の動き	取引先の様子	受注価格や販売価格の動き	
		x	受注量や販売量の動き	取引先の様子	受注価格や販売価格の動き
	雇用 関連	求人数の動き	求職者数の動き 周辺企業の様子	-	
		x	求人数の動き	-	
	特徴	: 以前にも増して買い回りが激しく、一度では購入せず二度三度と回って値引き交渉する客が多い(家電量販店) : 人材派遣の料金の低下傾向が進んでいる。社員を減らして派遣へシフトさせ、更には派遣を減らしてパートやバイトへシフトさせるなど、企業は経費削減にやっきである(人材派遣会社) x: 客先が設備投資を控え、次々と設備導入計画が延期になっている(一般機械器具製造業)			
	先行き	家計動向 関連	判断の理由		
			・ 来客数は例年並みに推移するが、値引きに慣れてきた客の単価を維持することが課題である(ゴルフ場) ・ これまでは広告を出すと集客や売上が見込めたが、今では特別価格の商品のみ売れ、あまり効果がない(その他専門店[貴金属])		
企業動向 関連		・ 仕事量の確保のためには、ある程度価格を下げないと受注できないという状況は当面続く(金融業) ・ 法人の設備投資が非常に先行き不透明で、計画が後倒しになっている(金融業)			
		・ 企業は余剰人員の整理に追われている。派遣の受注も減少しているが、派遣社員も不要なくらい仕事が減っている(人材派遣会社)			
雇用 関連		・ 企業は余剰人員の整理に追われている。派遣の受注も減少しているが、派遣社員も不要なくらい仕事が減っている(人材派遣会社)			
特徴		: タクシー料金が4000円以上の方は会社で契約しているホテルの利用を指導している会社もあると聞いている(タクシー運転手) : 競合店が休業日を減らしたり、ポイント制の導入やサービス券を配ったりして、客の獲得にやっきになっている(スーパー)			

( D I ) 図表24 現状・先行き判断D Iの推移

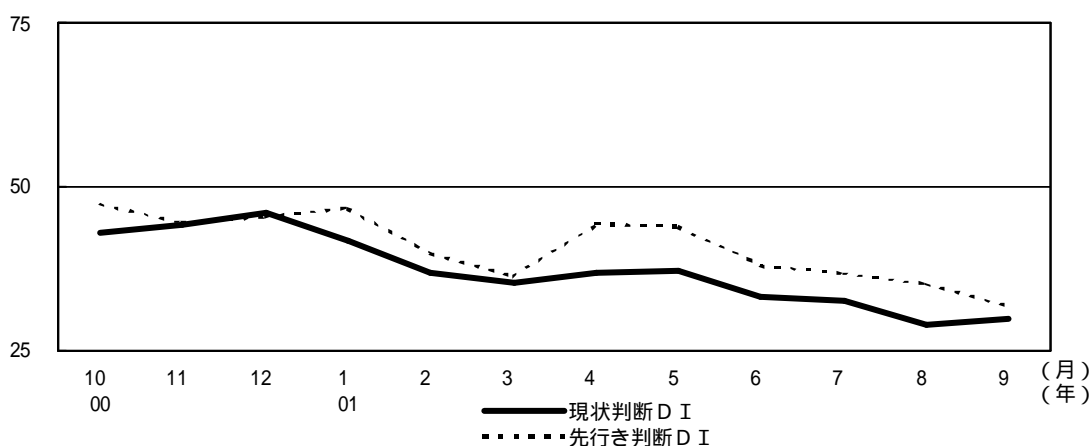


6. 北陸

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由		
			1	2	3
現状	家計 動向 関連		来客数の動き	単価の動き	お客様の様子
			来客数の動き	お客様の様子	販売量の動き
		×	来客数の動き 販売量の動き	-	お客様の様子
	企業 動向 関連		受注価格や販売価格の動き 取引先の様子	-	受注量や販売量の動き
		×	受注量や販売量の動き	受注価格や販売価格の動き 取引先の様子	-
			受注量や販売量の動き	受注価格や販売価格の動き 取引先の様子	-
	雇用 関連		求人数の動き	採用者数の動き 雇用形態の様子 周辺企業の様子	-
			求人数の動き	それ以外	-
	特徴	: 客は商品の選択に慎重で、長い時間をかけている(一般小売店[果物])。 : サービス、修理などはそれほど落ちていないが、話題の多い新型車やマイナーチェンジ車の受注がかなり減少している(乗用車販売店)。 : 従来 100 円均一商材が非常に多かったが、最近はその販売価格が 80 円台に低下している(食料品製造業)。			
	先行き	分野	判断	判断の理由	
家計 動向 関連			・受注に結び付く客の反応は、ディスカウントセール以外ではみられない(乗用車販売店)。		
			・秋物の新商品については、本当に必要な物だけを 1 点買いする客ばかりである(百貨店)。		
企業 動向 関連		×	・優良企業においても、将来に備えてスリム化を目指し、リストラに走るケースがみられる(不動産業)。		
			・年末商材の商談では販売価格を昨年よりも下げる交渉が相次いで行われている(食料品製造業)。		
雇用 関連			・例年冬場の受注の問い合わせが入る時期であるが、今年はその件数があまり上がってきていない(人材派遣会社)。		
特徴	: 家計収入の減少を理由に料金を滞納する客が増加している(通信会社)。 × : 年末に向けたギフトや歳暮商戦などが、例年この時期から始まるが、今年は一斉出荷も全くみられない。多分、ギフトも歳暮も大きく動かない(輸送業)。				

( D I ) 図表25 現状・先行き判断 D I の推移

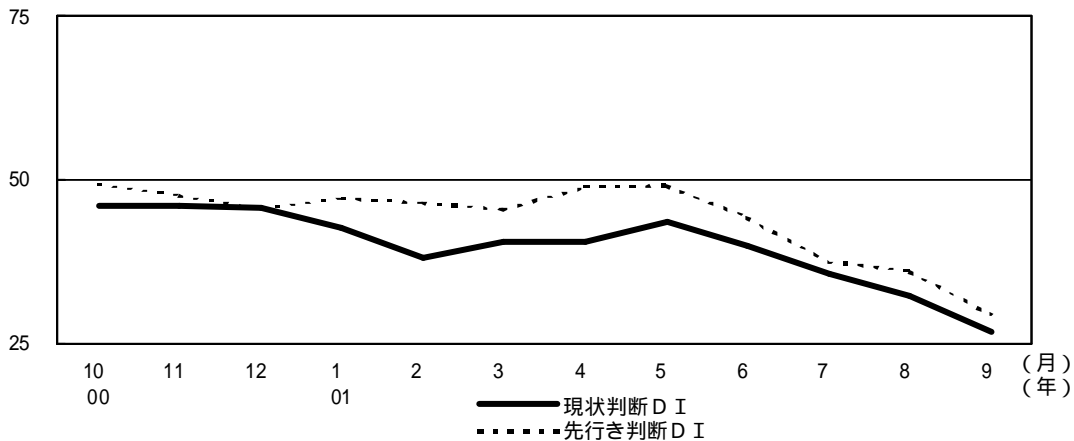


7. 近畿

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 x悪 )

分野	判断	判断の理由			
		1	2	3	
現状	家計 動向 関連		販売量の動き	お客様の様子	来客数の動き
		x	来客数の動き	お客様の様子	販売量の動き
			来客数の動き	販売量の動き 単価の動き	-
	企業 動向 関連		取引先の様子	受注量や販売量の動き 受注価格や販売価格の動き	-
			受注量や販売量の動き	受注価格や販売価格の動き 取引先の様子	-
		x	受注量や販売量の動き 取引先の様子	-	受注価格や販売価格の動き
	雇用 関連		求人数の動き	求職者数の動き 採用者数の動き 雇用形態の様子	-
		x	求人数の動き	求職者数の動き 周辺企業の様子	-
	特徴		: 輸入物のスーパーブランドはヒット商品に支えられ売上が2ケタ台の伸びをみせているが、それ以外のアイテムは販売量が減少している(百貨店) : 米国テロの影響を大きく受けている。海外はもちろん、飛行機を使う国内旅行、特に沖縄に大きな影響が出ている(旅行代理店) x: 大手スーパーの破たんにより、本体だけでなく関連企業や取引企業の破たんや人員整理も顕著となっている(職業安定所)		
	先行き	分野	判断	判断の理由	
家計 動向 関連			・米国テロの影響が間接的に波及する懸念があるとともに、狂牛病の今後の広がりによっては生鮮食品のウェイトの大きい食品スーパーの業績に影響が生じる(スーパー)		
			・客がタクシーを利用する機会は緊急の時ややむを得ない時を除くとほとんどない(タクシー運転手)		
企業 動向 関連			・事業が年間での契約形式であるため、来年3月までは現在の好調な契約状況が維持される(経営コンサルタント) ・同業者はある程度淘汰されるまで競争激化が続く(建設業)		
		x	・企業側の要求と人材がかみ合わず、成約に至らないケースが多発している(人材派遣会社) ・今年度中に人員整理を予定している企業が多くあり、今後、更に人員整理、破たんの動きが強まる(職業安定所)		
特徴		: 価格破壊によってブロードバンドの導入が増加する(通信業) x: 客からゴルフどころではないとの声が聞かれる。また、倒産の被害を被ったとの声も周囲に多い(その他専門店[ゴルフ用品])			

( D I ) 図表26 現状・先行き判断D Iの推移

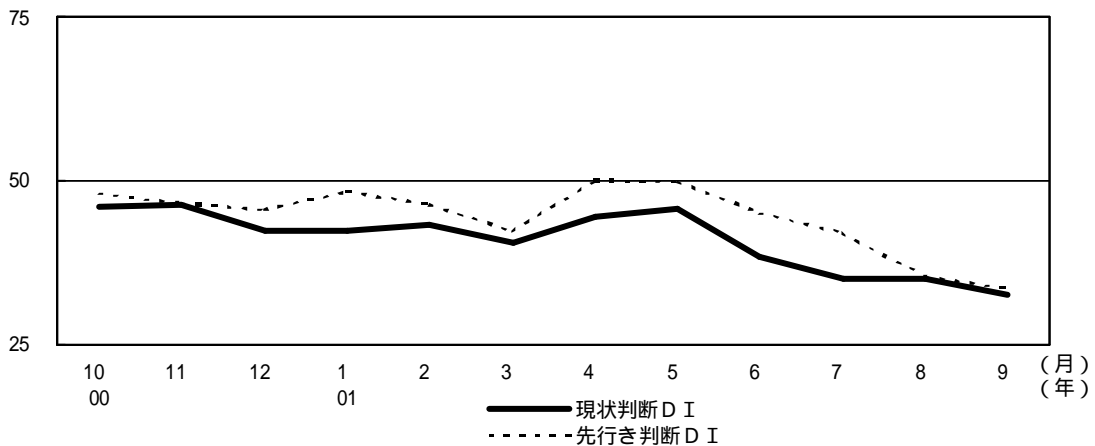


8. 中国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野	判断	判断の理由			
		1	2	3	
現状	家計 動向 関連		来客数の動き	販売量の動き	お客様の様子
			販売量の動き	来客数の動き	単価の動き お客様の様子
		×	来客数の動き	お客様の様子	販売量の動き
	企業 動向 関連		受注量や販売量の動き	取引先の様子	受注価格や販売価格の動き
			受注量や販売量の動き	受注価格や販売価格の動き 取引先の様子	-
		×	受注量や販売量の動き	取引先の様子	受注価格や販売価格の動き 競争相手の様子
	雇用 関連		求人数の動き	求職者数の動き 採用者数の動き 周辺企業の様子	-
		×	求人数の動き	雇用形態の様子 周辺企業の様子	-
	特徴	: 婦人服、子供服などファッション部門の秋物は順調だが、美術、宝石、紳士服は苦戦している(百貨店) : 大手スーパー、百貨店、自動車メーカーとその下請関連の企業でリストラになった人たちが求職者となっており、求職者数が増加している(民間職業紹介機関) × : 鉄鋼製品を卸している問屋などにおいて在庫水準が落ちておらず、製品の過剰感がある(鉄鋼業)			
	先行き	分野	判断	判断の理由	
家計 動向 関連			・ 資金的に余裕がある顧客でも、先行き不安から一段階下の物件を購入する(住宅販売会社)		
			・ 乗用車販売は企画が功を奏して増加しているが、サービスの売上は減少しており、先行きが不透明である(乗用車販売店)		
企業 動向 関連			・ 高炉メーカーの粗鋼生産量の減少は続き、電子部品メーカーでは引き続き在庫調整が行われる(窯業・土石製品製造業)		
			・ 得意先ではエレクトロニクスに加えて、自動車関係の業績も悪化している(鉄鋼業)		
雇用 関連			・ きらら博閉幕後に大量の求職者が出るが、その受皿がなく、状況が悪化する(人材派遣会社)		
特徴	: パソコンの次世代OSが出るので期待が持てる(家電量販店) : 通信料金のプランにおいて、低価格競争が更に激化する(通信会社)				

( D I ) 図表27 現状・先行き判断 D I の推移

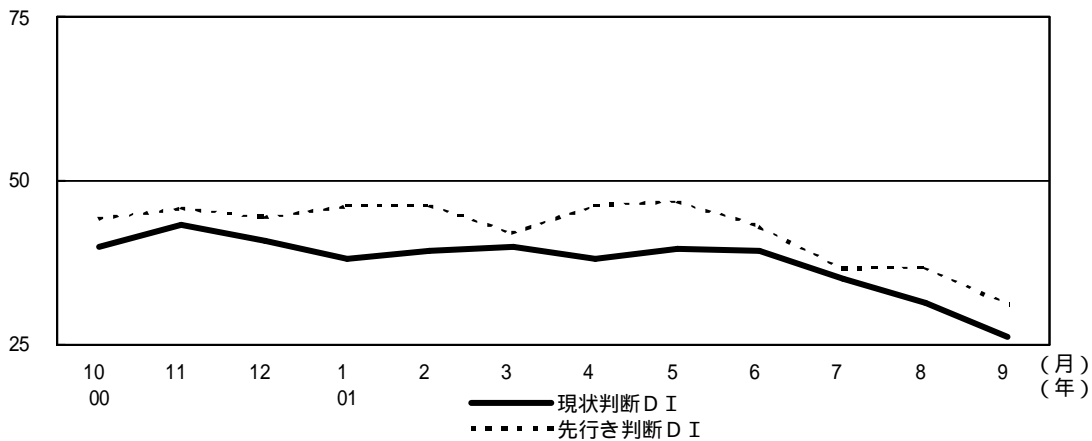


9. 四国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野	判断	判断の理由			
		1	2	3	
現状	家計 動向 関連		来客数の動き	販売量の動き	お客様の様子
			販売量の動き	来客数の動き 単価の動き	-
		×	来客数の動き	単価の動き	販売量の動き お客様の様子 競争相手の様子
	企業 動向 関連		受注量や販売量の動き	それ以外	受注価格や販売価格の動き 取引先の様子 競争相手の様子
		×	受注量や販売量の動き 受注価格や販売価格の動き 取引先の様子	-	-
			受注量や販売量の動き	-	-
雇用 関連		求職者数の動き 周辺企業の様子	-	求人数の動き それ以外	
		求人数の動き 求職者数の動き 雇用形態の様子	-	-	
特徴		: パーゲンに対する顧客の反応に変化はなく、不急不要な商品は購入しない傾向が続いている(百貨店)。 × : 敬老の日や彼岸も今一つ盛り上がりならず、彼岸のおはぎ等も低単価傾向がみられ、ギフトの発送件数も少ない(スーパー)。 × : 小売業から製造業、建設業に至るまで全般的に売上が10%以上減少しており、利益も赤字転落する企業が増加している(公認会計士)。			
分野	判断	判断の理由			
家計 動向 関連		・必要な物を最低価格で購入しようとする購買意識は一向に改善していない(百貨店)。			
		・駐車場及び通行料は1割から2割程度減っている(商店街)。			
企業 動向 関連		・得意先の経費見直しが一段と進み、広告費削減の話が多い(広告代理店)。			
	×	・再度のリストラ計画が業界でも広がっている(家具製造業)。			
雇用 関連		・事業所閉鎖やリストラが減る傾向は全くなく、この状況は続く(職業安定所)。			
		・雇用調整に関する相談も増えている(職業安定所)。			
特徴		× : 旅行会社を通さずに航空券を購入する直販体制が進んでおり、売上が対前年比30%減少している(旅行代理店)。 × : 米国テロ以来、設備投資がピタッと止まっており、仕事があるのはメンテナンスぐらいである(電気機械器具製造業)。			

( D I ) 図表28 現状・先行き判断D Iの推移



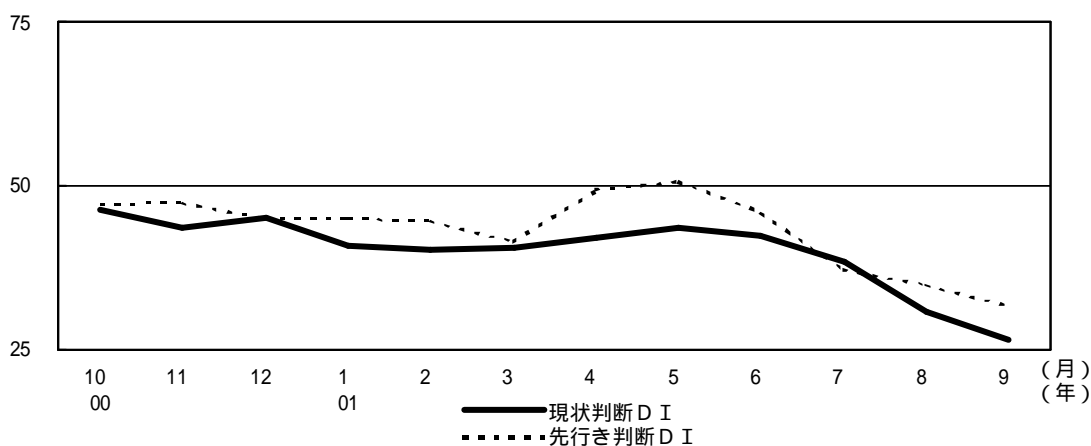


10.九州

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 x悪 )

	分野	判断	判断の理由			
			1	2	3	
現状	家計 動向 関連		来客数の動き	お客様の様子	販売量の動き	
		x	来客数の動き	お客様の様子	販売量の動き	
			販売量の動き	単価の動き	来客数の動き	
	企業 動向 関連		受注量や販売量の動き	受注価格や販売価格の動き 取引先の様子	-	
		x	取引先の様子	受注価格や販売価格の動き	受注量や販売量の動き	
			受注量や販売量の動き	それ以外	-	
	雇用 関連		求職者数の動き 周辺企業の様子	-	求人数の動き 採用者数の動き	
		x	求人数の動き 周辺企業の様子	-	求職者数の動き	
	特徴	: 高額ブランド品を個別に指定して購入する客がみられる一方で、低価格商品を求める若者が目立つ(衣料品専門店) x : ICのリードフレーム関連で在庫が増加しており、その調整がまだ続いている(電気機械器具製造業) x : 通信関係を中心にかなりのリストラが進んでおり、グループ会社へ出向する人もいるが、絶対数でいうと仕事のない人が多い(人材派遣会社)				
	先行き	分野	判断	判断の理由		
家計 動向 関連			・株関係の雑誌や本の動きがあまり活発化しておらず、また、米国テロのために海外のガイド本も売れていない(その他専門店[書籍])。			
			・パソコンの新しいOSなど、これから続々と新商品が出てくるが、売上の落ち込みを新製品で穴埋めするため、状況は変わらない(家電量販店)。			
企業 動向 関連			・大型賃貸物件の需要はあるものの、賃料単価はまだまだ低下している(不動産業)。			
			・金融機関の不良債権処理によるリストラ、及び企業整理の動きが一段と進んでいき、あまり良い要因は見当たらない(金融業)。			
雇用 関連		x	・5名以上の解雇の動きが続いており、当分の間収束する可能性がない(職業安定所)。			
特徴	: 求人依頼件数は大幅に減少しているものの、勝ち組み企業からのニーズは依然として底固い。全般的にみて様子見の状態である(民間職業紹介機関) x : 半導体メーカーからの発注状況が全く不透明である。発注の悪さは液晶関連ロボットにまで影響している(電気機械器具製造業)					

( D I ) 図表29 現状・先行き判断D Iの推移

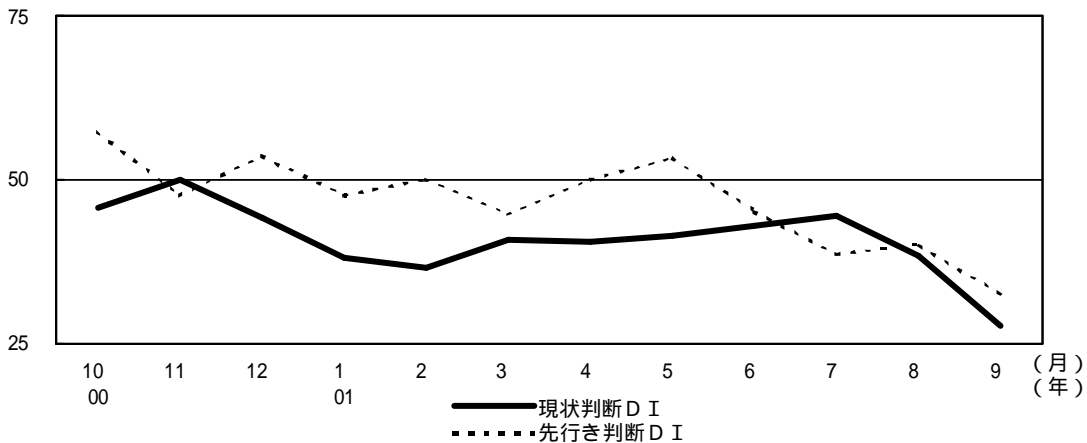


11. 沖縄

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 x悪 )

分野	判断	判断の理由			
		1	2	3	
現状	家計 動向 関連		来客数の動き	販売量の動き	単価の動き 競争相手の様子
		x	来客数の動き	単価の動き お客様の様子	-
			来客数の動き	単価の動き	-
	企業 動向 関連		受注量や販売量の動き	それ以外	-
		x	取引先の様子	-	-
			受注量や販売量の動き	-	-
	雇用 関連		求人数の動き	-	-
			求職者数の動き	-	-
			雇用形態の様子 周辺企業の様子 それ以外	-	-
	特徴	: 観光客数に減少の兆しはみられず、来客数は変わらない(一般小売店[衣料・雑貨])。 : 求人数、求職者数は特に変動はないが、高い水準の技術を求める求人者側と、求職者が持っている技術水準がかみ合わず、ミスマッチが多くなっていることから、就職者数が伸びていない(職業安定所)。 : 地元ではかなり大きい出版社や書店が倒産しており、年内に2店舗を閉鎖する予定の企業もある(その他専門店[書籍])。			
先行き	分野	判断	判断の理由		
	家計 動向 関連		・ 来客数は対前年比で 20%増加しているが、ここ最近の傾向として、子供用の菓子、いわゆるポケット菓子の売上が減少しており、全体の売上では対前年比で3%減少している(コンビニ)。		
		x	・ 米国テロの影響で宿泊キャンセルが相次いでいる(観光型ホテル)。		
	企業 動向 関連		・ 現状は最悪であるが、改善のために様々な企画や提案を実施しており、それらが実を結ぶ(通信業)。		
			・ サービス開始の延期が1件発生している(通信業)。		
雇用 関連		・ 今後の企業の方向として、先行き不透明により採用を控える可能性があり、2、3か月先の雇用状況はやや悪くなる(求人情報誌製作会社)。			
特徴	: 米国テロの影響を大きく受ける。今後も修学旅行等で沖縄を避けることが懸念され、売上も減少が見込まれる(高級レストラン)。				

( D I ) 図表30 現状・先行き判断D Iの推移



(参考) 景気の現状水準判断 D I

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった(注)

図表 31 景気の現状水準判断 D I

( D I )	年 月	2001 4	5	6	7	8	9
合計		34.4	34.6	32.7	29.9	25.5(26.5)	24.1(24.3)
家計動向関連		35.5	35.5	34.0	31.2	26.9(28.2)	25.5(25.8)
小売関連		34.0	34.1	33.9	32.1	26.7(28.0)	27.2(27.0)
飲食関連		39.9	33.9	31.4	28.2	25.0(26.0)	20.8(21.7)
サービス関連		36.9	38.5	35.5	31.5	29.5(30.4)	23.9(24.5)
住宅関連		38.0	37.7	33.1	25.7	20.7(23.5)	22.2(25.7)
企業動向関連		30.7	30.9	28.5	27.4	22.1(22.2)	20.9(21.1)
製造業		27.4	27.8	24.6	24.4	19.0(18.8)	19.3(18.5)
非製造業		33.3	32.7	31.6	29.0	24.7(24.7)	22.0(22.7)
雇用関連		34.9	36.3	32.6	26.8	22.7(23.7)	21.4(21.0)

( ) 内は7月調査以前からの1500人を対象とする数値。

図表 32 景気の現状水準判断 D I (各分野計)

( D I )	年 月	2001 4	5	6	7	8	9
全国		34.4	34.6	32.7	29.9	25.5(26.5)	24.1(24.3)
北海道		32.4	33.7	34.2	30.7	31.2(31.0)	27.5(27.5)
東北		34.1	33.2	29.6	26.9	22.9(23.4)	22.1(22.1)
関東		34.8	34.5	32.2	30.7	22.6(24.1)	23.9(25.0)
北関東		35.4	28.9	27.7	26.1	20.1(21.7)	21.5(23.8)
南関東		34.5	37.2	34.3	32.8	24.2(25.2)	25.4(25.6)
東海		37.2	37.8	34.5	28.2	27.0(28.0)	24.7(26.7)
北陸		30.5	30.9	27.0	27.6	24.5(24.5)	22.9(22.9)
近畿		36.2	36.5	33.4	30.4	26.2(27.9)	23.6(22.7)
中国		39.0	38.0	37.0	31.0	28.8(30.0)	28.1(29.5)
四国		26.4	28.5	27.2	24.7	21.2(21.4)	19.1(18.8)
九州		34.2	34.9	36.3	34.9	27.8(27.4)	23.9(24.0)
沖縄		40.6	35.9	39.3	40.9	33.3(36.3)	26.7(23.7)

( ) 内は7月調査以前からの1500人を対象とする数値。

(注) 景気の現状をとらえるには、景気の方方向性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。